

令和元年度 学校（自己）評価（保護者・教職員）アンケートのまとめ

今回の学校だよりは、学校（自己）評価のまとめをお伝えします。保護者アンケートは11月29日に配布し、12月13日までに回収しました。アンケートへのご協力ありがとうございました。教職員アンケートも同時期に実施、回収しました。2月20日、21日の参観日に保護者説明をします。また、2月28日に信州型コミュニティスクール運営委員会説明を行います。目を通していただき、ご質問等がありましたら、教頭までご連絡ください。

評価：A「そう思う」 B「おおむねそう思う」 C「そうは思っていない」 D「そうは思わない」

項目	評価の観点	評価	保護者		コメント	教職員		コメント	アンケート評価の結果		課題及び改善策・向上策
			人数	割合		人数	割合		外円:保護者	内円:教職員	
1	授業づくり	A	15	52%	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日連絡ノートや下校時に今日一日の生活内容を教えていただけるので確認することができます。 ・単元ごとに子どもたちが楽しみながら取り組めるよういろいろ工夫してくださっていると思います。 ・食べることが多すぎると感じます（例えば夏、毎日のようにかき氷を食べる必要はあるでしょうか）。 ・いろいろな手を尽くしてもらっています。 ・お子さんとご長所や得意分野をうまくとらえて、必要な役割を与えて一緒にこなしていくことで自信をつけることができていると思います。 	1	5%	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と支援者全員が、「将来の姿」を共通認識しその目標に向かって支援をしていくことが大切だと思う。 ・子どもの特性に合わせた一人ひとりのねらいがすわっていないところがある。 ・前年度踏襲の学習が多い。 		<p>保護者から子どものおよそできつつあることを把握し、そこを伸ばすために楽しみながら取り組めるような工夫をしていることや、特性に応じたかわり方をしているとの評価をいただいた。教職員からは、前年度踏襲の学習が多いことや子どもの特性に合わせた一人ひとりのねらいをよりの確にしていける必要性が挙げられた。今後も児童・生徒の実態をしっかりと把握した上で、一人ひとりの願いや思いを大切に、子どもたちが「できた」「分かった」「またやりたい」と思えるような可能性を伸ばす授業づくりを図っていきたい。</p>	
		B	13	45%		16	84%				
		C	1	3%		2	11%				
		D	0	0%		0	0%				
		合計	29			19					
2	教育課程編制	A	16	55%	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉だけでは伝わらないことも多いので、視覚支援を取り入れてもらっています。 ・本人の性格など理解し指導していただいています。 ・大好きなおやつ作りを楽しみに、一日の流れが分かりやすく視覚支援されている。 	1	5%	<ul style="list-style-type: none"> ・活動ありきではなく個々に合った活動に変えていければさらによいと思います。 ・個対応になりやすい。 ・日々の活動に追われてしまう。その活動がその子にとってどのような意味がありどのような育ちにつながるかを考えたい。 ・1対1の対応が多く、出張、年休で回らなくなるが多い。 		<p>保護者から子どもの興味・関心や特性を踏まえて指導内容や指導方法を工夫している点の評価があった。教職員側からは活動ありきではなく、行っている活動がその子にとってどのような意味があり、どのような育ちにつながるかをしっかりと見据えて教育課程を編制する必要性が挙げられた。また、指導体制として個対応になりやすいことも課題として挙げられている。一人ひとりの育ちを的確にとらえ、PDC Aサイクルを活用し、指導内容や指導方法、指導体制など柔軟に工夫を加えていく。</p>	
		B	11	38%		15	79%				
		C	2	7%		3	16%				
		D	0	0%		0	0%				
		合計	29			19					
3	個別の指導計画	A	18	62%	<ul style="list-style-type: none"> ・細かなところまで見ていただいているので最初は驚きましたが、今は安心していきます。 ・もうできるようになった課題のプリントがずっと続いたり、かと思えば、先に行きすぎて難しすぎる課題になったりもうちよっつと、ちょうどよい課題を選んでいただけたらと思うことがあります。 ・本当によくやっていたらいいです。なので、学校に行きたくないとは言わずに通学できています。 ・保護者の要望も取り入れていただき大変感謝しております。 	2	11%	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の共通の支援ツールとしていきたい。情報共有ができるようなシステム(体制)づくりが必要である。 ・日々活用できるものにしていくために、もっと簡潔な形式にした方がよい。 		<p>保護者から、個別の指導計画について保護者と共に検討・作成し、丁寧に振り返りを行いながら、授業改善を行っていること、それが児童生徒の育ちにつながっていることについて評価する意見をいただいた。教職員の評価からは、情報共有のための共通の支援ツールとしての活用や活用しやすくするための工夫等、システム作りの検討が必要であることが挙げられた。今後、校内ではPDC Aサイクルで個別の指導計画を振り返ったり、改善したりしながらより活用して支援・指導にあたっていきたい。</p>	
		B	10	34%		15	79%				
		C	1	3%		2	11%				
		D	0	0%		0	0%				
		合計	29			19					
4	交流及び共同学習	A	13	45%	<ul style="list-style-type: none"> ・普通級の児童たちの言葉のシャワーを浴びることができて満足しています。 ・居住地校との交流についてはこんなやり方、こんな内容でやったことがあるという話をお聞きしたいです。そしてそれを参考にさせていただけるといいのと思います。 ・居住地校の児童のみなさんも楽しく交流してくれ、声をかけてもらったり、応援メッセージをいただいたりしています。 ・以前は交流というものを重要視していたがそれは親の一方的な気持ちなのか…と思うようになった。本人は支援学校内で充実して過ごす時間の方が過ごしやすいのでは…と感じることが多くなった。校内での活動をより充実させる方がよいのかと思う。 ・本来特別支援学校なので現在の中学部くらいのかかわりで丁度よいと思います。 	5	26%	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部との交流の必要性を感じる。 ・交流内容は須坂小学校とお互いに歩み寄って考えていきたい。 ・常盤中と生徒会を通しての交流ができていくことを大切にしたい。 ・交流方法は個によって違ってもよいので、ニーズに応じた交流していきたい。 ・普通学校と併設している分教室などの取り組みも学んでみたい。 ・レインボーランドの交流等須坂小の6年生がごく自然に支援学校の児童とかわる姿を見て、積み重ねの大切さを感じる。また、本校ならではの学びの姿であると思い、大変な部分もあるが今後も大切にしていきたい。 		<p>保護者から、交流及び共同学習から得られる成果や内容、頻度などに対して満足しているとの回答があった。教職員側からは併設校の須坂小学校との交流に関して、共に作り上げていく必要性や双方の児童が自然にかかわる姿から積み重ねの大切さや本校ならではの学びがあり今後も大切にしたいという意見が挙げられた。インクルーシブ教育システムの先駆者としてより積極的に発信するとともに、本年度の実践を踏まえ行事への参加の仕方を工夫したり、児童生徒の願いや実態に応じたあり方を模索したりして、より主体的な活動にそして、相互理解につながるものにしていきたい。また、キャリア教育の視点から高等部生との交流も模索していきたい。</p>	
		B	15	52%		11	58%				
		C	0	0%		3	16%				
		D	1	3%		0	0%				
		合計	29			19					
5	個に応じた指導	A	19	66%	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の支援だけでなくお友達がやっていることを観察しながら自分で理解していると思います。 ・前の学年で理解できていた学習を忘れてきているものもあり、教材の工夫などでもう一度理解できるようにご指導願います。 ・字についてはよく指導していただいています。数字もそう書けるように指導していただけたらと有り難いです。簡単な計算式でもできたらお願いしたい。 ・日々多忙な業務の中、子どもが興味をもてる課題を用意していただき、楽しんで取り組めて着実に力をつけることができていると思います。大変満足しております。 	3	16%	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ視覚支援が充実してきた。 		<p>保護者から、一人ひとりに応じた子どもが興味のもてる教材教具の工夫や視覚支援の充実が、個に応じた必要な支援になっているという評価をいただいた。また、教材の工夫等で学習内容を定着できるようにしてほしいとの意見があった。これに対しては、児童・生徒の実態を把握し、分かる状況やできる状況づくりを進め、より一層一人ひとりが力を発揮できる支援をしていけるようにしたい。また、自立活動担当と協力して客観的なアセスメントをもとに個に適切な教材を選定できるようにしたい。</p>	
		B	8	28%		15	79%				
		C	2	7%		1	5%				
		D	0	0%		0	0%				
		合計	29			19					
6	チームでの支援	A	17	59%	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の先生だけでなく中学部の先生方も含め挨拶をしてくれるので見守られていると感じます。 ・年度当初、先生方間で子どものことに関してちゃんと引き継ぎをしていただけたのか不安を感じる場面が何度もありました。また、日々、担任の先生方間で情報が共有されていないのでは？と思う場面もたびたびあります。 ・放課後等デイサービスの日数を増量していただいたり、新しい事業所を利用できるようにしていただいたりして感謝しています。 ・よく連携が取れているなあと思います。気になったことなど先生方で情報の共有ができていてすばらしいと思います。 	4	21%	<ul style="list-style-type: none"> ・やっとならチームでの支援が始まってきたと思う。もっと研修を深めたい。 ・お互いの支援を認め合うベースのもと、時には率直に意見を言える雰囲気があります。 ・みんな忙しい中助け合っていると思います。 ・クラス単位の支援、個別支援が多く、チームとしてどう動くかの検討ができない。 		<p>年度当初の引き継ぎや日々担任間での情報共有に関して不安を感じる保護者もおられた。これについては、チームで支援にあたっていることを踏まえ、日常的に児童・生徒の情報を交換する機会を設けたり、個別の指導計画の作成・検討を経て、児童・生徒の情報共有をし意思統一を行っていただくことで解決していく。また、職員間の支援情報の共有や小学部・中学部の部間の連携も今以上に取れるようにしていきたい。さらに担任と自立活動担当、特別支援教育コーディネーター等が密接に連携を取りながら、それぞれの立場から複眼的視点で児童・生徒を見ることにより、多面的に支援ができるようにする。</p>	
		B	11	38%		11	58%				
		C	1	3%		4	21%				
		D	0	0%		0	0%				
		合計	29			19					
7	安全・安心な学校	A	19	66%	<ul style="list-style-type: none"> ・本人は大きな音など苦手なものがありますが慣れてもらうしかないと考えています。 ・思わぬ行動を取ってけがをする等全てを防ぐことは難しいと思いますが、(そういう特性があることも考慮して)未然に防ぐための対策、また、起きてしまったことに対しては全体でどうしたら良かったか今後のことを検討してほしいと思います。 ・先生や周りのお友達にけがをさせてしまって申し訳なく思っています。できるかぎり爪を切ってけがをさせないようにしますのでよろしくをお願いします。 	3	16%	<ul style="list-style-type: none"> ・リセットスペースがほしい。作業や集会等の活動ができる場所がほしい。 ・限られた活動場所、教室数の中なんとか過ごしている状態にあると思います。 ・外部での会議の開始時間を16:00～、16:30～にしていただけるようになってきている。 ・限られた施設環境のためより有効に活用できるよう検討していきたい。 		<p>保護者から学校内で起きる事故に対して未然に防ぐよう努めること、また、今後の対応をしっかりと検討し行うよう要望があった。これに対しては、児童・生徒の突発的な行動から起きる事故に関しては、特性を十分理解した上で支援にあたり、未然に防ぐように万全を期す。万が一起きてしまった場合、どうしたら防げたかについて対応策を検討し支援に生かすことを徹底していきたい。教職員からは、活動場所や教室数の不足について意見があった。併設校の須坂小学校と施設の有効活用について話し合う機会をもち、不足する活動場所や教室数等への改善を図りたい。</p>	
		B	10	34%		14	74%				
		C	0	0%		2	11%				
		D	0	0%		0	0%				
		合計	29			19					
8	日常の業務改善	A			<ul style="list-style-type: none"> ・やる事が削減されなければ難しいと思う。何を削減していくかは難しいが…。働き方改革のための取り組みが負担にならないようにしたい(例:持ち帰り仕事時間の提出、それをまとめる教頭先生の仕事量)。 ・負担感には常にあります。 ・登下校の時間を変えない限り打ち合わせの時間がない。 ・今年度は特別な会合が増えた(プロジェクト、10周年記念行事係会等)ので時間のやりくりが難しかった。 ・業務内容を削減し、日々健康に働けるようにしたい。 	0	0%		<p>教職員の多数が日常の業務の負担感を感じている状況がある。前任校との比較において回答している教職員もいると思われる。金曜日をNo kaigiデーとし、定時退勤日に位置づける。第二・四週は定時退勤徹底日として退勤時間を19:00までとしていきたい。また、年3回研修日を設定し、業務負担を減らすように努める。校内的には会議の削減などこれ以上難しい面もあるが、行事の精選や校務分掌の見直し・統合など業務の改善を図るなどして働き方を見直し、教職員が十分力が発揮できる職場にしていく。</p>		
		B				3	16%				
		C				13	68%				
		D				3	16%				
		合計				19					

項目	評価の観点	保護者		教職員		課題及び改善策・向上策
		人数	割合	人数	割合	
意見・要望等	「働き方改革」の業務見直しで、日常の業務の負担感は減少したでしょうか。	A				<p>保護者アンケートの回収率は、100%であった(家庭数29)。回収率が高く、調査結果は信憑性の高いデータであるといえる。児童生徒理解やその指導・支援のあり方、学校運営上の校務分掌の業務分担等については、職員会議において毎回確認をしたり、学期ごとに反省をし改善策を検討したりしてきている。また、「保護者との関係作り」「応用行動分析」「性教育」「感情のコントロール」等の研修を計画・実施し、特別支援学校職員として幅広く専門性を高めるよう努めている。今後も、保護者の皆さまや児童・生徒の教育的ニーズをこれまで以上に教育活動に反映できるように、関係者が連携を図りながら複数の教職員が対応にあたるようにしていく。小学部・中学部の独自性を保ちつつ、部を超えた連携をして一体感のある学校づくりに取り組んでいく。働き方については会議を削減したり、No Kaigiデーを設定したりして業務負担を減らすように努めていく。学校行事に関して、その意義やねらいを再検討した上であり方を検討し、できるものは削減できるようにする。また、保護者と相談しながら個別の指導計画を基に個々の実態に応じて参加の仕方を一人ひとりに応じたものにしていく。</p>
		B				